

水の文化 森林の



ミツカン水の文化センター

表紙上下：建築家 長大作の「はっぱチェア」(上) とインテリアデザイナー 水之江忠臣の「小椅子」と「テーブル」(下)。デザインも製造も日本の家具である。普段使うものが、何でつくられているか、どこからきたか、誰がつくったか、そういうところまで気持ちを寄せて生きたい。

裏表紙上：日本の森林は、誠に急峻な山地にあって、その厳しさからどうしてもコストアップしてしまう宿命にある。しかしまた、その厳しさゆえに人と人を強く結びつけてきた。長野県・逸山郷では、人知の及ばない神の力にすぎる暮らしが、数多くの祭りを育んできた。

裏表紙下：生まれた川に戻り卵を産もうとする鮭や、野山を駆ける猪や鹿は、自分の力で生きている野生の生きものだ。その命を育てているのは森林であり水。命をいただくことで、私たちは身の内に森林を取り込んでいる。

流域



- 市川健夫 「ブナ林帯文化論の復権」
- 永田 信 「林政史が語る日本の森」
- 徳地直子 「森の保全と物質循環」
- 半谷栄寿 「森を守るために消費地が今できること」
- 藤田正治 「土砂災害と土砂資源」
- 石 弘之 「森林からの警告」
- 水の文化楽習実践取材 「新しい〈クニ〉の形」
- 中村文明 シリーズ里川 「源流を極めると森林再生に行き着く」
- 古賀邦雄 水の文化書誌 「森の国土環境保全論」

水の文化 February 2010 No. **34**

水の文化
2010
34

